

第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議（議事録）

日 時：平成29年11月22日（水）
午後2時から午後4時まで
場 所：県庁行政庁舎 第二会議室

1 開会

●山崎 震災復興推進課副参事兼課長補佐（総括担当）

それでは、時間前ではございますが、本日出席予定の委員の皆様がおそろいでございますので進めてまいりたいと思います。

只今から、「第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議」を開催いたします。

はじめに、伊東震災復興・企画部長からご挨拶申し上げます。

2 挨拶

●伊東 震災復興・企画部長

皆様こんにちは。

委員の皆様には大変お忙しい中を、日程調整に大変ご苦勞をいただき、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。感謝申し上げます。

今回、第3回目の有識者会議となります。第1回目には、委員お一人お一人から取組を踏まえて伝承について、様々な、大変重要な論点、視点、考え方を出示していただきました。前回第2回目の会議ではそれらをまとめた資料を見ていただきながら、さらにご意見をいただきましたが、冒頭の理念の部分も含めまして、まだかなり不十分だなと思ったところがございます。今回、もう一回新たに修正をした資料をお配りしているところがございます。

申し訳ございませんが、今回もう一度、理念を中心に全体を見ていただきながら、ご意見を出していただいた上で、次回からは少し個別の論点を深めていくというところに入らせていただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

本日もご忌憚のないお話を聞かせていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、前回、臼井委員から県民の意識を把握することが必要ではないかというお話をいただきまして、ちょうど今日から毎年やっております、県の県民意識調査というものを始めております。その中に、急遽、1問、2問くらいの内容ですけれども、風化についてどう感じておられるのかを、あるいはそれをどういうことから感じているのかというところを調査させていただきたいということで、入れました。年度内に取りまとめということになりますので、公表させていただきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

では、どうぞよろしくお願いいたします。

●山崎 震災復興推進課副参事兼課長補佐（総括担当）

ありがとうございました。

本日は、宮城学院女子大学の宮原委員は所要により欠席されております。

また、資料1として本有識者会議の設置要綱を付けております。

これまで委員としてお願いしておりました浅利委員から委員の辞退の申し出がありましたので、代理としてこれまでも会議にご出席していただいております。みやぎ観光復興センターの塚原センター長に改めて委員としてお願いすることとなりましたので、ご紹介いたします。

また、皆様の机の上に、会議の資料の他に、阿部委員からご提供いただいた「被災地支援に期待される学生ボランティアを考える」というシンポジウムのチラシを配布しております。さらに県の生涯学習課から、「地域・学校・行政が連携して地域防災力を高める地域防災フォーラムin宮城」の案内も併せて参考に配布しております。

なお、今週末行われます世界防災フォーラムにおきまして、宮城県主催のプレナリーセッションがございます。震災伝承をテーマにした、伊東部長をコーディネーターに全国の伝承に関して研究されている方、県内の伝承活動をされている方のシンポジウムを予定しております。そちらのご案内を会議終了時にお配りしたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、次の議事の進行につきましては、今村座長をお願いしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

(1) 第3回有識者会議・市町会議の概要について

●今村座長

今村でございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。お手元に議事がございます。(1)から(3)ということになります。(1)は、前回の第2回有識者会議で各委員からいただいたコメントを整理していただいております。それを確認しながら、特に理念とか、また進め方などの多数のご意見をいただきました。それをご確認いただきたいと思います。また、ほぼ同時に市町会議もございまして、その報告もいただく予定でございます。

これを受けて(2)では、震災の記憶・教訓の伝承について、もう少し深くご議論をいただきたいと思います。

今回第3回がこのようなテーマでございますが、第4回以降は個別の議論をさらに幅広く、打ち合わせ、また議論をいただきたいと思います。

それでは、第2回の有識者会議、前回の会議での概要を、資料2を使いまして説明をいただければと思います。

●事務局（山下 参事兼震災復興推進課長）

県の震災復興推進課の山下でございます。

私の方から資料2、資料3ということで、東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討会の有識者会議及び市町会議の概要について説明させていただきます。大変失礼ですが、着座にて説明させていただきます。

でははじめに、資料2の「第2回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の概要」についてご覧いただきたいと思います。めくっていただきまして、前回第2回につきましては10月12日、本庁分庁舎502会議室で開催させていただいております。

なお、開催の結果につきましては、2ページ目から記載させていただいております。

当日は委員の皆様から多くのご意見をいただきまして、伝承の理念、検討フレーム、「誰に」、「何を」、「どのように」伝承するのか、それぞれに該当する内容を集約しておりますので、発言順とは異なる個所もあるかと思いますが、ご了承いただきたいと思っております。

まず、「①震災の記憶・教訓の伝承の理念について」としまして、2ページ目から3ページ目にかけて記載しております。ここでは、犠牲と困難を繰り返さない、広く情報発信をする、自然災害というくくりの中での伝承、地域性・地域づくりの中での取組、沿岸部だけではない「オール宮城」での取組が必要とのご意見をそれぞれいただいております。

続きまして、「②今後の震災の記憶・教訓の伝承のあり方の進め方（検討フレーム）」としまして、これにつきましては4ページ目から5ページ目にかけて記載させていただいておりますが、「誰が」という主体の見極めと関わるべき主体、フレームの中に時期の追加、県民意識の把握の必要性、相談窓口や情報発信など、県を俯瞰して牽引する組織の必要性などのご意見をいただいたところでございます。

次に6ページ目から7ページ目にかけて、「③「誰に」伝承するのか」についてご意見をいただいております。県民向けと県外向けの仕分け、世界向け、専門向けと一般向けの仕分け、未経験者・未災者向け、学生や転勤者などの一定の期間の滞在者向け、他地域向け、そういった形での「誰に」というところでのご意見をいただいております。また、女性向けなど多くの対象者、対象分野についてもご意見をいただいたところでございます。

「④「何を」伝承するのか」につきましては、8ページ目から9ページ目にかけて記載させていただいております。復旧だけではなく、復興などの全体像を示す、過去の災害の教訓の活用状況の把握が必要である、知識や教訓の知見の発信、伝承の結果の把握が必要である、地域特性、震災を契機とした事象の起点という考え方についてのご意見をいただいたところでございます。

最後に「⑤「どのように」伝承するのか」につきましては、10ページ目から12ページ目にかけて記載させていただいております。ニーズに対応した伝承の手法、共有という方向性、防災学習と地域での防災活動、語り部の育成、既存アーカイブのコーディネート、施設等のネットワークによるゲートウェイ機能、国営祈念公園やハード施設の関わり、来訪者に鎮魂の想いも持ってもらえるような対応などについてご意見をいただいたところでございます。

このようにいただいたご意見につきましては、後ほど説明する資料4において取り込んでいる所です。

続きまして、資料3をご覧いただきたいと思います。資料3につきましては、「第2回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討市町会議の概要」を記載しているところでございます。資料3の1ページ目と2ページ目の冒頭の表題に「第1回」と書いてありますが、「第2回」でございます。大変申し訳ございません。修正をお願いいたします。

第2回の会議におきましては10月11日に、第1回会議の内容を受けて、伝承のあり方についての意見交換を行っております。その際の意見等を取りまとめたものを本資料に記載しているところでございます。

まず、1ページ目をご覧くださいと思います。1点目の「伝承のあり方」につきましては、(1)の「伝承施設等における展示・伝承内容の共通化と差別化」として、共通化できる内容と各施設が差別化すべき内容を出してもらっております。今後各市町と協議しまして、共通化すべき内容をどのように実施していくのか、またそれぞれの市町において差別化すべき内容につきまして、どのように各市町、施設ごとの想いなどを連携しながら伝えていけるか等を協議していきたいと考えております。

2ページ目に移りまして、(2)の「語り部の担い手の確保・育成・組織化」としましては、これまで民間主導で行われてきた取組の中で、行政の関わりや代替補完策などを検討していくこととしております。

「アーカイブ」では、宮城県図書館が運営している「東日本大震災アーカイブ宮城」の現状を説明させていただき、今後の取組についての情報交換を行ったところでございます。

それから2ページ目の下の方にあります、2点目の「連携・ネットワークについて」として、各市町で整備している伝承施設の今後の課題についての情報交換を行っているところでございます。

このように、第2回有識者会議及び第2回市町会議で出された意見を基にしまして、震災の記憶・教訓の伝承につきまして、委員の皆様とともに、誰に、何を、どのように伝承し、その場合のあるべき姿を検討していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

簡単ではございますが、概要の説明とさせていただきます。

●今村座長

ありがとうございました。

まず資料2は、前回の有識者会議での委員の皆様方のコメントでございます。これはダイジェスト版ですので、当時お話になった内容をそのまま伝えることはできませんけれども、要点はここにまとめているところでございます。委員の皆様方には議事録で確認いただいているのですが、やはりあのときのお話の内容をある程度文章で説明しないと伝わらないのかなと思います。

今後、最後は報告書をまとめるのですが、その際に報告書の中に、想いであったり、状況、そういうものを入れていきたいと思っております。本日はご発言いただいた要点だけ確認いただければと思っております。

説明の中にありましたように、ここでの指摘点はこの後ご議論いただく資料4に入っておりますので、そこで改めて確認いただいてもいいのかなと思っております。

あと資料3においては、我々の有識者会議の前日に開催されました市町会議の概要でございます。1ページは伝承のあり方、また2ページにはネットワークのあり方についても要点を示していただいております。課題等はかなり出ているのかなと思っております。

これら資料2・3について、何かご確認、ご質問等ありましたらご発言をいただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

【質問・コメントなし】

●今村座長

ありがとうございました。

(2) 震災の記憶・教訓の伝承について

●今村座長

それでは、本日の本題であります資料4に移りたいと思います。これがある程度整理いただいたものになります。まずは事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局（山下 参事兼震災復興推進課長）

引き続き、私の方から説明させていただきます。

資料4をご覧くださいと思います。1枚めくっていただきまして1ページ目からです。

今回の資料で青字となっている箇所についてですが、前回お示しした資料のうち、委員の皆様からのご意見に基づきまして、修正追加した個所となっております。それでは説明させていただきます。

まず、1ページ目でございます。「(1) 震災の記憶・教訓の伝承の理念について」でございますが、伝承を行う背景としまして、「東日本大震災を受けて」と「東日本大震災からの時間の経過に伴って」という大きく2つに整理をいたしまして、前者では県内の多様な被災状況や過去の災害の経験の活用状況について記載させていただいております。後者につきましては、既に様々な活動が行われていることや自然災害への対応の必要性などを追記させていただいているところでございます。

このことを受けまして、「東日本大震災と同じ犠牲と混乱を繰り返さないために」ということとしまして、2ページ目の震災の記憶・教訓を広く、次世代に伝え続けていく、同じ犠牲と混乱を繰り返さない覚悟を持って伝承する必要がある、県民すべてが同じ意識を共有して取り組む必要がある、宮城の地域特性を理解した上で伝承に取り組む、その上で防災・減災の地域文化を創造する、こういったことをキーワードに、全体の理念であります、同じ犠牲と混乱を繰り返さないためにということでの、前回は1つの文章で表現させていただいたのですが、今回はいくつかの文章に分けて、それぞれ記載させていただいているところでございます。

その上でこうした理念に基づく取組を進めていく上で、具体的な目標（案）としまして、地域文化として根付く目標年を、震災時に生まれた子供たちが社会の中核となる震災後30年後とし、県全体として官民連携により組織的に伝承活動を続けていく、また、すべての県民が生涯にわたり、世代に応じた防災学習に必ず関わることを実現すること、ということ掲げまして、その結果、それを実現することで災害対応力と発信力のある地域社会としての宮城モデルの構築を図っていく、ということを目指して、案を設定させていただいております。

続きまして、3ページをご覧くださいと思います。「(2) 震災の記憶・教訓の伝承の基本的な考え方について」の基本的な考えといたしまして、前回は「検討フレーム」として図式化してお示ししておりましたが、前回の皆様のご意見や、後ほど小田委員からご説明

をお願いする資料内容などを基としまして、伝承の対象「誰に」、伝承の内容「何を」、伝承の方法「どのように」、伝承の主体である「誰が」に分け、その内容をインデックス形式に記載しております。

これらにつきましては、次のページからの「(3) 震災の記憶・教訓の伝承のあるべき姿について」の確論ということで、伝承の対象、内容、方法、主体それぞれの内容ごとに詳細を記載しておりますので、そちらと併せて見ていただければと考えております。

4 ページに移りまして、まず、対象であります「誰に」ですが、今回は前回に加えて、一定期間在住している人や女性、遠隔者について整理し、課題表記であったものを、前回の意見を踏まえた形で修正させていただいております。

5 ページをご覧いただきたいと思っております。次に内容であります「何を」ですが、前回の意見で課題として出された点を○印の5項目にまとめたところがございます。やはり現在のところ、伝承に関わるデータの集約、取りまとめが不十分であると。伝えた結果どうだったか、それを把握することが大事であるという意見もいただきました。聞きたい側のニーズを的確に把握した上で伝える、地域の特性をどう打ち出していくのか、直接的な事象ではなくて様々な影響力を持った出来事であることも一緒に伝えるべきである、というような意見が出されたものをまとめさせていただいております。

なお、「何を」の全部の項目として、(ア) (イ) (ウ) と3つに分けておりますが、この項目分けとしましては前回と同じでございます。またそれぞれの青字の点につきましては、ご意見を反映させていただいております。特に(イ)の記憶・経験のところにおきましては、亡くなった方を忘れずに、その想いをつないでいくことも大事だということも意見として出されておりますし、(ウ)につきましては、過去からの経験・教訓を併せて伝えるべきだということ等を追加させていただいております。

続いて6 ページから7 ページにかけましては、伝承の取組について記載させていただいております。そのうち個別の取組とそれを組み合わせたものでは、施設での共通映像の作成と各市町で保有している映像の共通利用のほか、前回いただいたご意見などをここでは提示させていただいているところがございます。

また「どのようにして」というところでございますが、7 ページにあります③(イ)の(a)から(d)までの取組の連携・ネットワーク化、ネットワーク・マネジメント機能としまして、8 ページに震災遺構のネットワーク形成、あるいはネットワークのゲートウェイ機能、あるいはその拠点機能、国営追悼・祈念施設との関わり方、アーカイブの連携・コーディネート等を追記させていただいております。ネットワーク・マネジメント、情報の受発信と相談窓口を運営する組織としてもご意見をいただいておりますので、ここで追記をしているところがございます。

9 ページをお開きいただきまして、主体である「誰が」につきましては、今回新たに取りまとめてさせていただいております。現在の取組主体としましては、住民・語り部、地縁団体、NPO等各種団体、企業、行政などを記載しておりますが、県全体の伝承を牽引する官民連携組織の必要性は、前回の会議でご意見をいただいている所でありまして、今後その必要性を考える上で、組織の機能、体制、取組内容、財政など様々な点で検討を重ねていく必要があるかと思っておりますので、ここにつきましてもご意見をいただきたいと思いますところがございます。

最後に、10 ページの「(4) 今後の記憶・教訓伝承のあり方検討の進め方(スケジュール)」ですが、今回の第3回まで理念や基本的な考え方の整理、各論の課題整理を行

いまして、第4回以降の会議で、先ほど座長からありましたように、個別の課題検討に移らせていただきまして、最終的にご意見として取りまとめをさせていただきたいと考えております。前回と若干修正させていただいているところでございます。

以上、今回資料4としまして作成、追記、修正をしておりますので、また皆様方からご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

●今村座長

ありがとうございました。

ただいま説明いただいたとおりに、理念から、あるべき基本的な考え方、姿等を前回のコメントごとに提示いただきました。青いところが前回からの追加・修正でございまして。ご覧のとおり前半部分は特に青いので、前回のコメントがかなり反映されたと思っております。かなりボリュームも多いので、少し分けて議論をさせていただきたいと思っております。

まずは資料4の1ページ、2ページです。この理念については、非常に重要でございまして、できれば今日かなりもんでいただいて、これを基に各論の議論をしていただきたいと思っておりますので、もう一度1ページ、2ページを見ていただき、ご質問、新たなコメント、追加等をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

●塚原委員

みやぎ観光復興支援センターの塚原です。どうぞよろしくお願いいたします。

県の方で色々と文言を盛り込んでいただいて、大変見やすくなっていると思います。ありがとうございます。

私が感じたところは2ページの点線の枠内です。具体的な目標（案）ということで、まだ案なので、これからも修正なり色々な余地があると思うのですけれども、概ね方向性というのは理解できます。地域文化として根付く目標年を定めるという事なのですけれども、目標を定めるということ自体は全く異論は無いです。ただ、期間が震災後30年ということで、果たしてこの30年というのは適切なのかどうなのか、そこは議論の余地があるのではないかと思います。目標を定めること自体は、全く否定すべきものではないと思いません。

それから、ゴールがこのように目標（案）として定められるわけですが、その途中途中の目標設定というか、5年後に終わるべきだ、10年後にこうあるべきだということも、何らかの形で書面に落とし込んでいく、あるいはこの後の各論の中で盛り込んでいくのが必要ではないかというように思いました。

●今村座長

ありがとうございます。

ご指摘の点、今回は具体的な目標は例として挙げていただいております。この30年後というのは1つの目標になってございますけれども、是非これについてもまたご意見いただきたいと思っております。

一応、30年というのは一世代ですね。次の世代につながるまで、我々しっかり目標を立てましょと。理念というのはそれよりも大きくて、今後震災の記憶・教訓を伝える際の基本的な、これは変わらないものになっています。目標はある程度のフェーズごとに

決めていくのだろうと。それがどのくらいのスパンで整理していくのか、もちろん今回30年というのを一つの事例として出ておりますけれども、もう少し短くするとか、または30年にして、そこを何段階に分けるか、そこは是非ご意見いただきたいと思っております。

●武田委員

前回の議論の中で、ここに関わる強い意見がこういう明確な形で出たという記憶自身が私の中にはなくて、誰かから30年という言葉が出たかなと、ずっと振り返っているのですが、あまり出ていなかった記憶があるのですよ。それ自体は何も問題はないのですが、どういう経緯で30年後という数字が一つまず出てきたのかということ事務局から説明いただければと思います。

●今村座長

分かりました。では、議論をするためにも事務局から説明をいただければと思います。

●事務局（山下 参事兼震災復興推進課長）

まず30年後ということで、恐らくこの理念につきましては何十年後ということではなくてこれからずっとという形になるかと思ひ、その方向性を示しているところではございますが、具体的な目標を掲げていくというのも一つのやり方ということで、そうするとどこにその目標を置いたらよいかということになると、10年なのか、30年なのか、100年なのかということになります。

けれども、あまり長いとそれをどう確かめるのかということも難しいということもありますし、短いと本当に長期の計画や方向性というのではなかなか難しいところもありますので、そうしたときに一つの考え方として、今回の震災で被災された方が次の中核的なところになるまでにと、先ほどの塚原委員からありましたように、30年間の中での行動起案というか、一つの目標期間という形に設定してはどうかということで、このような案を設定させていただいております。

●今村座長

いかがでしょうか。点線はまずは理念を、そして具体的な目標もやはり必要だということで少しイメージを作っていたところでございます。ただ、キーワードとして30年がいいのか、やはりそこは重要なところですのでご意見をいただきたいと思ひます。

●武田委員

今話を聞いた上での感想ですが、具体的に活動の目標として目標値を定めることについては、私も塚原委員と同じように異論はありません。今の世代一つを一つの目標にするという事についてもまあ妥当だとは思ひますが、「すべての県民が」という下のくざりと合わせると、やや足下向けのイメージがあるのですよね。防災文化を、地域文化を創造しましょうということが最後のコメントになっているものですから、県民運動としての性格をこの伝承の中で重視しましょうということが結構前に出ているための、30年後の目標という感じを受けました。

それはそれとして、県民向けの目標値の設定は妥当なのかもしれませんが、結構出た意見、私を含めてなのですが、外に向かって、何がこう自分たちが今持っているものをきちんと伝えていこうという視点というのも一方でやっぱりあって、もちろんそれをちゃんと確立するためには県民自体がそういう意識を持たなくてはいけないよね、という論理展開にはなるにしても、どちらかというところを固めてこちらがありますというよりも、平行してやっていかななくてはならないテーマのような気がするのですね。

なので、具体的な目標案というところを足下の県民向けに対する具体的な目標案というような限定をつけるのであれば、妥当な目標かなと思います。

この伝承活動全体を規定するような目標というふうに捉えられないような仕掛けというか、書き方はやはりしないと、結構内向きだね、というような評価をもしかしたら受けしてしまう。それでなくても、今、震災被災地のあらゆるセクターに対する先行被災地の目というのは、私が知る限り結構批判的です。まだ何もやっていないじゃないかおまえ達、みたいな意識でかなり捉えられているというのを実感しております。偏見も含めてそういったものがあるとは私は思っていますが、そういった意味での発信力が問われているのは事実で、そこをこの内向きだけの目標で始まってしまったときの反動というものは相当あるだろうなと。

もう少し大きく構えた中で、これは県民向けにはこういう文化を創りましょうというメッセージとして、30年でやれよと、30年できちんと県民向けにはやるよという覚悟を示すものとしては問題ないとしても、もう一方の方をきちんと書けないかなと思います。

外向けのものを平行してきちんと書けるような整理をしていただけるといいのかなという感想を持ちました。

●今村座長

ありがとうございました。

そうですね、事務局から回答がくるかと思うのですが、具体的な目標はこれ一つなのですが、一つとは限らなくてよろしいかと思えます。今の県民に対する目標と、それ以外の方に対する発信力というキーワードをいただいたのですが、そういう目標があっても当然よろしいかと思えます。

これについていかがでしょうか。今ここにある理念の話と次に具体的に我々が持つべき目標と二つ議論しております。これは非常に大切ですので、これに関してコメントをいただければと思います。

●阿部委員

今の武田委員のご発言の背景や趣旨などと近いものがあると思っています。理念についてここでおまとめいただいたことについては、直接的にとりか個別にはこれから申し上げる意見、考えは関係ないものです。

それで何を申し上げたいのかというところ、伝承の理念、伝えていくことの理念についてなので、国語辞典的な意味で言えば、理念はあるべき姿とかになると思えますので、この後の資料でもあるべき姿が出ているということでも、ここの2ページにおまとめいただいたことは一つの姿だろうなと思っています。

その上でなのですが、「誰に」「何を」「どのように」「誰が」ということがありましたので、5W1Hではないのですが、そういったものをちょっと考えてみたときに、な

ぜ伝承をしていくのかということ、改めて、つまり伝承をすることの大切さについてどこかで高らかに謳っておく必要があるのではないかという気がしております。どこかでというのは冒頭です、宮城県として、こういう伝承に積極的に取り組むということの必要性でしょうか、大切さを高く謳っておくことも必要ではないかなというふうに思っています。

もうもちろんお気づきになっているのかなと思いますが、少なくともおまとめいただいたところは、また前に戻りますが、あるべき姿についてまとめられているようにすごく見えるのです。もう一度繰り返しになりますが、なぜこういう伝承に積極的に取り組んでいくことが大切なのか、必要なのか。伝え続けていくというのが最初の〇に入ってますから、伝え続けていくことが大切だということ、どこか最初の方でしっかりまとめておく必要があるのではないか。そして武田委員のお話申し上げたことは、30年でとどまらないでしょうと。伝え続けていくことについてはもっと長いスパンでというようなこととかも関係するのかなと思います、今のようなことを発言させていただきました。

●今村座長

ありがとうございました。

阿部委員のご指摘は重要でありまして、今資料を見ますと1ページを改めて見ていただきたいと思えます。これは実は我々の背景でありまして、3.11直後を受けて現状を見ますと以前の経験、伝承を活用できなかった。また我が国は南海トラフなど他の地域でもやはり同じような災害が懸念されている。このあたりが書いているのかなと思っております。

もしこの点で不足点がありましたらご指摘いただきながら、この上で2ページにつながっているとご理解いただければ大変ありがたいかなと思います。

●阿部委員

そうですね。ちょっと足りなかったかもしれませんが、私は例えば文化の創造ということをよく書いていただいたなと思っております、2ページで。

そうすると、文化の創造ということをあえて改めて、宮城県としての地域の文化の創造、この震災の伝承というのでしょうか、震災体験、あるいは震災の記憶、この辺のところを改めて新たに文化を創造していくのだ、ということ強くメッセージを掲げられてもいいのではないかと気がしますし、また少し私の個人的な好みで引き寄せて申し上げると、例えば現代社会に生きる人間として、特に日本という国土に生きる私たちとして、こういう大規模震災に対してある程度の関心と理解を持つということは教養そのものだという気がするのです。

私たちは教養というものを、長い歴史の中から創り上げられてきた文化としてそれを教養として学ぶのだけれども、まさしく現代に非常に大きな出来事がある、そして過去とは違って、情報に対して私たちが活用できるツール等々もものすごく発達していますから、過去の時間の流れよりは遙かに短い6、7年ですか、この間に集積された情報やあるいは整理された知識、そういうものもかなりの量に、あるいは質に達しているのではないかと思います。

そういう意味で長い歴史の時間に耐えたという点はないのですが、文化を創造するという意味で、教養としてそれを共有していくということは謳われてもいいのではないかな

という気も、個人的な趣味ですけれども、している。サンプルに考えていただければと思います。

●今村座長

ありがとうございました。

教養としての共有という重要な言葉をいただきましたので、それをどこに置けるのか、事務局の方でご検討いただければと思います。ご意見ありがとうございました。

それでは改めて1, 2ページの理念について、一部目標についてもご意見をいただいております。他の委員の皆様いかがでしょうか。

●石塚委員

2ページのところで、青い部分がこれまでの議論の整理みたいなところですので、何か必要なところは盛り込まれているけれども、全方位的というように見えてしまう気もします。これまでの議論とつなげますと、「宮城モデル」という言葉が最後に出てくるのですが、これがいったい何なのかということが、この左に書いてある災害対応力と発信力のある地域社会イコール宮城モデルなのかどうなのか、ということが問われていることなのかなと思いました。

もう一つの視点として、宮城モデルというのが今示すことが可能なのかということもあるかと思っております。今様々な検証なども始まっている段階でこれから明らかになってくることですか、伝えるべきことというのが見えてくるようなところもあります。

仮説として示していくことは非常に重要だと思うのですが、今後進んでいく、10年目にある程度見えてくる気もしているのですが、この復興を振り返ったときに何が本当の宮城モデルなのかというようなことは、そこでもう一段階明らかになっていくのではないかなと思っております。そこで明らかになったことをきちんと捉える事ができるようにしておきたいなと思っております。

あと30年という言葉のところで、目標設定をするというのは大事だと思うのですが、一方で、毎年なのか分かりませんが、それをちゃんと検証していくとか、評価していくという枠組みも必要じゃないかと思っております。ここに書くことではなくてもっと後の方にくることだと思いますけれども、ちゃんと目標に対して毎年なり評価して、どうだったのかということをもみんなで振り返っていくことができるといいのではないかなと思いました。

●今村座長

ありがとうございました。

宮城モデルの点をご指摘いただきました。目標の方に書いていただいているのですが、理念の方に挙げていって、我々最終的にこのモデルを作っていくという考えもあるかと思っております。これについても非常に重要なポイントですので、頭に置いていただきながら議論をしていきたいと思っております。

それも含めて、1, 2ページいかがでしょうか。

●宮下委員

この大タイトルに「東日本大震災と同じ犠牲と混乱を繰り返さないために」と謳っている中で、この目標年数の30年は長すぎるのではないかなという気がします。この30年後というと、震災時に生まれた方が大人になるまでという形では考えていらっしゃると思うのですが、震災時に一番大変な思いをした生き証人が減少してくることも考えなくてはいけないと感じます。生きた言葉が伝わりにくくなってしまふことが心配です。

今の日本の現状を考えると、いつどこで災害が起きるか分からない中で、この混乱を繰り返さないために伝承するのだと謳うのであれば、もう少し目標を短くしても良いのではと感じます。具体的に年数を書かなくても、減災文化が30年後には確立されている、ずっと続けていることがきちんと伝わるような書き方が必要ではないかなと思います。

過去の災害を見ても、例えば有珠山や三宅島のような火山災害や水害など、同じ地域で30年経たないうちに何度も災害を繰り返している地域もあるので、宮城県内だけではなく、世界各国にと伝えたい文化を醸成するのであれば、それが伝わるような表現や言葉が必要ではないかなと感じました。

●今村座長

ありがとうございました。

目標についてのコメントをいただきました。

●臼井委員

東日本大震災の犠牲、混乱を繰り返さないためということで5項目の考えが示されているのですが、最後の部分の、人間忘れてしまうものという文章の中で、防災・減災の地域文化を創造するとありますが、私は個人的に、最終的には今回の東日本大震災の経験とか教訓というのは、やはり防災・減災の、宮城県内の、あるいはもっと広くいうと日本の防災文化というところまで結びつけていって考えていく必要があるのではないかと考えております。

下段の具体的な目標案という中で、官民連携によって組織的に伝承活動を続けていくという文言はすごくいいのですが、下段の防災学習と関わりがあるのですが、この伝承活動の中に具体的に防災・減災に取り組む地区民、県民の姿というのが私には見えてこないものですから、防災学習の中に防災・減災への取組という具体的な実践する部分も含まれての文言なのか、そこが含まれているのかもちょっと確かめておきたいと思うのですが。

ただ防災学習で必ず関わり合いを持つということは、学問的な知識を吸収するというだけに留まってしまったのでは、私はちょっとまずいのではないかなと思います。実際に震災にあったあわないに関わらず、これだけ多くの皆さんが体験しているわけですから、やっぱり具体的に防災にどう取り組むのか、地域ごとによって特性も違いますから、それぞれあると思うのですが、あるいは減災に対して地域社会でどう取り組むのか、具体性をむしろその具体的な目標の中に掲げていった方が、受け止める県民の方にとっても分かりやすいような気が私はするのですがいかがなものでしょうか。

●今村座長

ありがとうございます。さらに具体的なということですね。

ありがとうございました。それでは他に1, 2ページのところでいかがでしょうか。

今までのご意見を整理させていただきますと、1ページがやはり背景でございまして、2ページ目に理念を5つ挙げていただきました。少しまた加筆等もあるかと思いますが、基本的にはお認めいただいているのかなと思っております。

さらにこの中に重要な「宮城モデル」というキーワードが出て参りますので、ここを理念まで挙げていくか、または目標の一つとして掲げていくのか。この目標に関しては、位置づけとしてどのくらいのスパンでどのように設計していくのかというのも少し、この会議の場で議論すると発散するような気がするので、事務局の方でまとめていただいて次回にご提案いただければいいのかなと思っております。

具体的な目標ということで、点線のものの方が委員の先生方にはかなりご関心を持っていただいて、やはり理念をどう具現化するのかということだと思っております。

●伊東 震災復興・企画部長

ありがとうございます。2ページの理念のところですが、何故というところは、同じ事を繰り返さないのだということと前回皆様からお話をいただいて、そこはやっぱりしっかりと位置づけようということで記載しています。繰り返さないためにということに対しまして、いくつかの、宮城県として押さえていくポイントということで5つ挙げさせていただきました。

そういう意味では全体的な、基本的な考え方についてはここでまとめたい。そしてそれだけではなくて、目標があって取り組んでいかないとなかなか具体化されないということで、たたき台という形で、目標について皆様から色々ご意見いただこうということで、案として出させていただきました。

今お話があったように、宮城モデルというのは、今もう既に頭の中にある訳ではなくて、これから作り上げていくものです。本当に今までにない震災被害を受けた宮城県としてしっかりとモデルを作っていくなくてはならないというところで書いたものですから、そういう意味では理念になるのか、理念はどちらかといえば基本的な考え方というところをまとめたもので、今後に向けて、このような目標を立ててやっていきたいと発展型として入れてみたというところがございます。

お話のとおりで、確かに発信力のある地域社会ということではありますが、具体的などころに発信の部分が入っていないとか色々あるので、また検討を続けてみたいと思います。また見ていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

●今村座長

ありがとうございました。

それでは、理念については恐らくこの有識者会議で毎回フィードバックするものであるかと思っておりますので、本日の意見はここまでとさせていただきたいと思っております。

●太田委員

一つよろしいでしょうか。

●今村座長

どうぞ。

●太田委員

具体的な目標と書いてあるのですが、この目標の目指すところがすごく漠然としている感じがして、その宮城モデルは何を目指すのか、ちょっと今、絵が描けない状況にあるのですが、究極の目標というのはたぶん一つも命を亡くさないとか、そこに行くためにどういうことを、どんな社会を作っていけばいいのかというようなことなのかなと思うのですが、何か具体的な目標とは書いてあるのですが、あまり具体的な感じがしないのですね。そこをなんとか改善していただけないかなと思います。

●今村座長

ご指摘ありがとうございます。

なおということで、ここでの議論は伝承の理念ということですので、伝えることの重要性をここでは謳っていて、さらに我々アクション（行動計画）していかなければなりませんので、そこをここまで書いてしまうか、伝承（理念）ということに絞った方がいいのか、ここもちょっとご意見をいただければと思います。

●武田委員

よろしいですか。ちょっと後で言おうと思っていたのですが、「啓発」という単語が全部に無いのですよ。「どのように」というところも学習くらいに留まっていて、市民向け、市民を巻き込んだ形の啓発活動みたいものを、具体的には皆さんイメージする訳ですよ。

一緒に何かをやったり、一緒に何かを学んだりみたいところの仕掛けを何とか作って行って、それを宮城モデルのような形で全県民が共有するようなものを作っていこうじゃないか、というものだと読めるのですが、そういう意味での啓発という部分というのが青字で整理した2ページ目にも出てこないところに、恐らく伝承の大切さと基幹となる考え方を整理されているけれども、具体的なところは何なのだろうなというところで共有できないのだと思います。私もそういうふうに思います。

なので、そこに関しては、県民挙げての啓発活動参加とか、新たな宮城発の啓発の仕組みをきちんと作っていくみたいところが書かれても、恐らくその理念の部分ではあっても、伝承を具体的に活用していく為の方向性はちょっとだけでも見せておかないと駄目かなという気がします。太田委員の意見も多分そういうことだろうと思って、今受け止めました。

●今村座長

はい。ありがとうございます。

それでは具体的なところも出ましたので、3ページを見ていただきたいと思います。3ページは先ほどの理念に基づく、今度は具体的な考え方ということで少しブレークダウンしたものでございます。改めて①は「誰に」、②が「何を」先ほどの内容になります、③は「どのように」、④が「誰が」というところでございます。

ここまで見ていただければ具体的な内容も書いてございますし、少しご理解が進むかなと思っております。

3ページの内容を先ほどの2ページの理念のところにとどこまで書き込んでいくかというところが今日の論点であるかなと思います。また事務局の方で次回以降の方向性といいましようか、案を出していただければと思っております。

よろしいでしょうか。3ページまでいかせていただいて、その上で4ページ以降は、今度はそれぞれの考え方に対して「誰に」「何を」等々ですね、前回は具体的にご意見をいただいた訳ですけれども、もう一度整理していただいたものを見ていただいて、追加または修正等をいただければと思います。

まずは4ページ、5ページですね、「誰に」「何を」というところでご発言をいただければと思います。

●小田委員

それでは今日、資料5としてお配りいただいたものですが、これは実は前回の各委員からの意見で、今日の資料4の4ページの「誰に」というところで文字としてまとめているその趣向を、私なりに整理してみたものです。

3ページの①のところに空間軸と時間軸を整理して、というふうに書いていただいた訳ですけれども、前回、まず時間軸と言えば、その世代、過去から未来へという話が出ておりました。資料5を見ていただきますと縦軸で、縦と横の軸が交差しているところが我々ここ被災地であって、かつ東日本大震災が起きた時点というふうに見ますと、まず被災地、前回の会議でも出ていましたけれども、3. 1 1東日本大震災以前のこの場所、宮城や東北で起きた過去の災害なんかも含めながら、この災害のことについて、未来に向かって傳承していくのだということがここに書かれています。

そしてこの縦軸が未来に向かって、現在ここ宮城にいる我々は未来に進んでいく訳ですけれども、そして30年後ということも出ていましたけれど、これが次の世代になっていくと。こういう図解でいくと。

それからこの横軸、空間軸は前回の会議で特に出ていた、県内でも内陸部、沿岸部があるだろうか、その意味では温度差もある一方で、内陸でも他の自然災害も経験しているという整理をここに書いております。

そして県内から県外になっていくと、震災を経験した他の被災地、東北の県外もありますし、遠く離れたところもあります。それから海外にいけば、海外に向かっても発信が必要だという話もございました。

一方で、海外の上あたりに来訪者とか被災地とか他の被災地と書いてありますけれど、これは当然国内であろうが海外であろうが同様の災害で被災した地域もありまして、その地域とはワープして我々交流しているところもあると思うのですけれども、そういった他の自然災害を経験した他の地域の人たちとのつながりをどうするかとか、国内・国外でこれからはしかして災害が起きてしまうかもしれないような地域にどう発信していくかという、これは皆さん各委員から前回出ていた意見をこんな形でまとめてみたところです。

記憶風化の防止というのは、この縦軸でいうところの、ここ被災地にいる我々にとっても世代がどんどん未来にいつてしまうと、これは記憶として忘れ去られてしまうかもしれないと。それをどうするかという考え方と、この場所から遠く離れてしまった人にとってみれば日常に東日本大震災というものはどんどんと無くなっていく、薄れていくという中で、その人達にどう発信できるか、どうしていくかという考え方があるかと思います。

長くなってしまいましたが、そのような形でこのようにまとめてみた次第です。ご参考になればと思います。

●今村座長

ありがとうございます。時空間的な整理をしていただきました。これについて何かご質問とかコメント等をいただければ。

このように時空間で整理するというのは非常に大切で、私が思うにこの色というのでしょうか、楢岡が何を示しているのかなと思ひまして、それが例えば経験だったり知識だったり教訓だとすれば、それもこう広がっていきますよね。将来に関しては広がりができるだけ広くて、他の地域の教訓とまたそれが融合しながら、過去にさかのぼるとその広がりが逆に縮まっていて、伝承がなかったり交流がなかったりするのです、そこで災害が起きてしまう。

発展的に書いていただくと、我々の向かうべき姿がここに少し出てくるような気もしまして、このグラフの関数というものに関心を持ってしまいました。

ありがとうございます。他にいかがでしょうか、よろしいでしょうか。

【意見なし】

このようなチャレンジも我々のこの会議の方でご提案できればと思っております。ありがとうございました。

それではもう一度4ページ、5ページに戻っていただきまして、「誰に」というところ、また「何を」というところです。4ページ見ていただきますと前回ご指摘としては、一定期間住んでいる方もいる。特に学生、転勤者ですね。これが宮城・仙台での特徴でもありますし、女性の視点も入れましょう、次世代についても少し追加のコメントをいただきました。あと、地域外の方は来訪者もいますし、元々東北におられる方がいる。そこに伝えていくところをご指摘いただいたところです。

大体、「誰に」というところはよろしいでしょうか。

【意見なし】

ありがとうございます。もし無ければ次5ページにいていただいて、「何を」というところでございます。

「何を」というところでは、課題を書いてあったり、整理・とりまとめが不十分であったり、伝えた結果どうなったかという効果とか評価ですね、これについても書いていただいております。聴く側のニーズを、また地域の特性をどう出していくのか、また影響力を持った出来事であることも伝えるべきだと。

こういう課題・現状を踏まえて、(ア)では記録・情報というのをまとめる、(イ)は情報というよりも経験ですね、個人の中に入っている経験をまとめること、また(ウ)では知識だったり教訓であったり、これはある程度体系化されたものというイメージだと思います。個別の経験、個別の情報ではなく、将来にも参考になるような、他地域でも参考になるようなものを(ア)・(イ)・(ウ)の段階で整理いただきました。これについては何かコメント等ございますでしょうか。

アーカイブというのはとにかく当時のものを全部集めるので、元々一時データと思っ

ていただいて、段々それから語り部ということでそれぞれのご経験をストーリーにすると、

最後それが教訓という形に残るということですね。そのような整理の仕方をしていただいております。

いかがでしょうか。このような形の整理でよろしいでしょうか。

【意見無し】

それでは6ページに移っていただいて、どのように伝承するのかというところでございます。

(ア)は伝承に当たっての視点ということで、(a)では情報は共有・発信すると。特にワンストップ、例えば仙台というようなイメージでここからどのように展開していただくか。沿岸部はそれぞれの地区・地域がありますのでそれをネットワークすると。このようなキーワードを出していただきました。

(b)については地域での取組ですね。取組の行為ということでまとめていただきました。ここでは見学・取材・体験というような言葉をいただき、また企業防災という取組としては特異的な感じはするかと思いますが、それぞれの事業活動をしている中での防災として、地域の中での一つになるかと思えます。

(c)は教育・育成でございまして、これは震災を知らない子供であったり、また知らない方々にどう伝えて、そこから気づきであったり、また成長というものを促すというような要素があるかと思えます。これをただ単に情報とか取組をこういったものであるかなと思えます。

(d)は地域外からの受入体制ということで、キーワードとしてはパッケージ化やオーダーメイドという言葉もいただきました。ジオパークという制度もありますし、震災遺構、また色々な施設というのものもあるかと思えます。具体的には修学旅行・観光客の受け入れ、あとそのときに受入窓口があると非常に有効であると。この部分は塚原委員の方でかなりやられているところだと思います。ニーズに応じた取組というようなことでまとめていただいております。

ちょっとまた一気にいきます。7ページです。

(イ)の伝承の取組として、個別の取組では震災遺構・伝承施設、それを人が語ること。アーカイブと隣同士になっておりますが、少し一線を置くかもしれません。アーカイブを使いながら伝えていただきたいという意味合いだと思います。あとは取組の組み合わせですね、これも重要だと思います。ニーズに応じて色々なものを、体験も現場視察も交流も含めてというようなものでございます。

ここまで、6ページ、7ページのところでいかがでしょうか。何か追加、不足分等、また考え方としてこれはというようなところはありますでしょうか。

●武田委員

既に伝えるべきものが揃っているという前提で書かれているような気がするのはちょっと、非常に危惧するところです。6年半以上経って、出るものは全部出たという意味ではそういう面はあるし、前回アーカイブは結構整備されて実はその活用方法が今大切なんだという指摘もしたところですが、実は末端レベル、市民レベルでも情報・体験については、本当は全部で尽くしたかというところは、ちょっと疑っているところがあります。

地域に入り込んでいく度に新しい話が出たりというところが、やっぱり我々の活動の中であつたりするので、これが「どのように」のところに入るのか「何を」のところに入るのか分からないのですが、データの集約・整理・取りまとめが不十分であるというところに、取りまとめ以前の掘り起こしということを、伝承の大前提としてやはりやらなくてはいけないのではないかという認識は強く持つておかないといけないのではないか。あるものの整理ではどうも追いつかない、それで満足してはたぶん駄目だろうな、まだ6年半だぞとというところを意識しなければいけないのかなあと。

そういう意味での「どのように」の部分にも反映されるし、プラスでいうと「どのように」のところの(a) (b) (c) (d)の考え方も、足下にあるもの、こちらを中心にしながら、来る人には何か教えましょうみたいな方向性が、特に(d)までの書き方で止まっているのですね。(e)があるのではないですか。こちらから伝えるに能動的に出て行くような方向性がここには見えないので、先ほどのお話とも少し通じるのですが、足下できちんと固めるといのはきちんとしてやらなくてはならない。そのための伝承であるというの一番大切なことだと私も思います。しかし、要求されているのはそういうこと以外の、宮城県は我々に何を伝えてくれるのですか、という事に対応した動きは、もう一方で、同じような比率できちんと持つておかないと、これだけの出来事を起こしたところの姿勢としてはやはり物足りないと言われてしまう。だから、(a) (b) (c) (d)で止まるのは大変もったいなくて、地域外からの受入体制で止まっているものですから、地域外への伝承・発信みたいところは強く打ち出さないと、またこぢんまりしちゃうなという感じがします。

内向きのところはちゃんとやる、外向きもちゃんとやる、そういう書き方を、さきほどの理念のところを二本立てにするようなやり方をとられた方がやはりいいだろうなと。内向きに関してはまだ出ていないぞと、もっともっと掘り起こして、その部分からやれるところはあるよねというところも、まだ10年になっていないので、打ち出した方がより良いだろうなと思いました。

●今村座長

ありがとうございます。2点ご指摘いただきました。それぞれまた十分ではないというところは、5ページの②「何を」伝承するかの丸のところ、一番冒頭に付けていただいてもいいかなと思います。

もう一つの点は、6ページ目の(e)というところで、やはり我々が地域外に発信していくのだと、この項目は是非入れていただくと。これは同意いただけるのかなと思っております。ありがとうございました。

●武田委員

プラスでいうと、4ページの地域外の人(a)の来訪者、(b)の遠隔者というのもやや冷たい分け方で、遠隔者という言い方もなかなかあと。やはり直前に、近い将来に被災が予想されている地域が明らかに、南海トラフも含めてあるわけで、そのニーズというのは非常に我々に対して強いですよ。それは別出しで(c)ないしは(d)にして、位置づけるべきだと思います。

一連の話はずっと通じている話なので、そこをお酌み取りいただければと思います。

●今村座長

そうですね、ありがとうございます。

ご指摘の点としては宮城県内の話と地域外に発信する話と恐らく二つ両建てでなければいけないと。それぞれ時間のプランニングが違うと思いますので、ここも意識するといいいかなと思います。ありがとうございました。

その他いかがでしょうか。5ページから7ページでございます。

●宮下委員

4ページのところで、いいですか戻っても。

●今村座長

はい、どうぞ。

●宮下委員

私はとても違和感を感じる表現があります。どうしてもお願いというわけではないのですが。

この地域に住む人の中で、(c)にわざわざ女性の視点というのを挙げているのですが、女性の視点というのをことさらに表現することに違和感を感じます。女性の視点と書かないと、宮城県は女性を差別しているのかととられかねないというのが私の強い印象です。

地域に住む人はもちろんですが、被災地外の人に伝えるのか、何を知りたいのかといえれば、当時障害を持たれている方がどんなことをしていたのか、子供や高齢者の人たちがどんな考えを持っていたのかということも、非常に興味のあるところだと思います。

という意味で、ここに女性だけを打ち出すのはすごく違和感を感じますので、もう少し(対象を)広げるのか、それとも何か言葉を換えるのか、あらゆる人たちで何か違う言葉、違う表現を使う方がいいのではないのかなと思います。逆に女性蔑視、差別につながるのではないかなと思いました。

●今村座長

ありがとうございました。第2回目の時に石塚委員からもご指摘がございましたね。

●石塚委員

はい、それに近いような話はしました。

●今村座長

ありがとうございました。コメントありがとうございます。

その他いかがでしょうか。

●太田委員

5ページ目の(ウ)なのですが、「できなかったことよりもできた事への積み上げを伝えるべき」にある「できなかったこと」というのは具体的にはどのようなことを想定して

書かれたのでしょうか。できなかったことは伝えなくてよいという意味に取れてしまう気がするのですが。

●今村座長

事務局の方からご説明いただけますでしょうか。

●事務局（山下 参事兼震災復興推進課長）

前回の意見の中で吸い上げた形なので、場合によっては表現の仕方がこちらの方で取り違えた可能性もあるのですが、できなかったというよりもやはりこうしたのが良かったというものを色々積み上げてそれを発信していく方がいいのではないかと、という意見があったかと思います。比較していいのかということもありますが。

●今村座長

文脈の中で使っていたものをここに入れていいかということですね。ありがとうございます。

●石塚委員

これは私が前回発言した意見で、ちょっと補足をしたいのですが、今仰っていただいたようにどちらかというところできなかったことを伝えなくていいということではなくて、今できることを積み上げていってそれを伝えるというような、伝えるだけではなくて実践を踏まえるというイメージで発言したものが、このようにまとめられたというものになります。ですので、ただ伝えるだけではなく、ベースを常に作り続けながらそれを伝えていく、実践と伝承の関係をメッセージしたかったのがこちらになります。

●今村座長

ありがとうございました。

●宮下委員

私も同じように思っていて、できなかったこととできたこと、できなかった反省点とできた良かったことという両面を伝えるのがすごく大事だと思います。まだ被災していない地域では、できなかった反省も聞きたいけれども、これをやったから良かったというプラスのことを聞きたいと思います。良いことも悪いことも、自分たちの地域に取り入れて活かしていこうと思うことが沢山あると思うので、その両方を伝える表現にすると良いと感じています。

●今村座長

ありがとうございました。

●阿部委員

震災が発災して間もなくの頃にできなかった、だけど準備してできたということもありますけれど、今のお話はそういうことかなと思うのですが、できなかったのだけど恐らくできるように今はなっているということもありますよね。

そういうこともすごくこれからと、他の地域の方々にとっては役に立つのではないかなという気がします。ここはそういう切り口で表現されたのだと思います。もう少し、先ほど座長がおっしゃられたように表現を多様な形にした方がよろしいということでしょうね。

●今村座長

ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。5 ページ，6 ページ，7 ページで気になるところ，また足りない点ですね。

●石塚委員

それぞれ書かれていることは間違いではなく、正しいことだと思うのですが、あるべき姿ということを考えてときに、それぞれの項目の間といますか、項目の関係性というのが大事ななと思っておりまして、このようにそれぞれ項目で表記するというよりは、関係性が示せるとすごくいいのではないかなと思いました。

先ほど小田委員から示していただいたような、もし可能であればこういった図のような形で、お示しできると良いと思います。

●今村座長

前はパワーポイントでイラスト的なものを作成していただきましたが、そのようなイメージでしょうか。

●石塚委員

そうですね。文化を創造するとか、繰り返さない覚悟を持つということ、その結果同じ犠牲が繰り返されないということですが、文化を創る覚悟を持つというところに、それぞれの何をどう伝承するか、どうつながっていくのかというのが、なにか図式で、もし示せるのであれば一つ議論が開いて行って、その中で今既に動いている、色々な県内各地の取組もありますので、どこをポジションとしてやっていくのかということも整理できるのではないかと思いますし、その後のネットワーク化、連携ネットワークにも議論としてつながりやすいのかなと思いました。

●今村座長

ありがとうございます。

私も、言葉が適切ではないのかもしれませんが、構造ネットワークみたいな、これはこういうものが関係して、ここから出て行って、最終的に防災意識とか行動につながる、みたいなフロー図かもしれませんし。そこが宮城ネットワークに近いかなと。

●伊東 震災復興・企画部長

前回、検討のフレームはお示したのですが、論点が多くて、それから項目もまだ整理しきれないところがありますので、まずとにかく意見を出していただくということを先にしたいと考えたものです。特にこれは非常に分量が多いので、そこを本当に分かりやすく図式で示すのは、意見をいただいた後にやろうかなという感じになっておりました。すみません。

確かに色々お話をいただいている、構造的に、部分のところ、もう少し何がどこにつながるというところがあるので、そこは検討させていただきたいと思います。

●今村座長

ありがとうございます。それもいくつかバリエーションがあると思うのですがね。

●伊東 震災復興・企画部長

そうですね。1枚の紙にはまとめきれないかもしれないので。

●今村座長

ありがとうございます。

それではもう、全体を通じていかがでしょうか。8ページですね、ネットワークの話も出ました。また9ページのところで「誰が」という主体ですね、取組主体の話も入れていきたいと思います。

●塚原委員

9ページの県全体の伝承を牽引する組織の必要性ということで、官民連携組織の必要性という問題提起といますか課題提起がなされています。それと併せて8ページにも連携・ネットワーク化、ネットワーク・マネジメント機能が必要とあって、その下に矢印があって、右の四角の中に「どう図るか」という課題が投げかけられているのですが、こちらは来月以降の中の各論で議論していくのか、「図るのか」で終わってしまうと進歩も進展もないのかなというところがあって、是非次回以降の個別の各論の中でどうしていくのかということ議論していきたいということと、この9ページに官民連携組織の必要性ということに関して、先立つものは県の方で一旦とりまとめ役というか、組織体なりというものを作って牽引していくというのが必要だと思うのですが、その辺の考え方というのは県の方でお持ちなのかどうか聞いておきたいと思います。

●今村座長

ありがとうございます。まさに個別のテーマが矢印と四角の形になると思いますが、また組織について、現時点で結構ですので、県のお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

●伊東 震災復興・企画部長

個別について、今回お話しいただいたように「どう図るか」とありますけれど、こちらについては今後詳しく意見をいただいきたいと思っております。それから組織についても非常に大事なテーマということですが、ただ県の方で今具体的にこういう組織で、と示す段階にないので、組織を作るとするとどういう機能が必要なのかとか、そういうことについて色々お話をお伺いできればと思っております。

●今村座長

私から県の方をお願いしているのは、神戸もありますし、中越もあるので、その組織も比べながら宮城県としてどこを狙っていくのか、その辺も考慮をお願いしたいと思います。ありがとうございました。

●阿部委員

今度はとても明快なことです。9ページです。④の（ア）についてです。（a）から（e）までのグルーピングがなされていますが、学校が（e）行政の中に入っているのですが、これは別の項目の方がよろしいのではないかという気がいたします。以上です。

●今村座長

ありがとうございます。そうですね、行政なのですが…。

●武田委員

それでいうと企業の中にマスコミというのも何だかなと。それほどあまり一般化されてしまうとやや寂しいなという気がします。マスコミというよりもメディアだと思いますけれど、メディアは外出して、一項目で全然構わない気がします。

●今村座長

ありがとうございます。

●臼井委員

6ページなのですが、「どのようにして伝承するのか？」という中の「伝承に当たっての視点」（b）ですが、地域での取組ということで、キーワードとして日常への溶け込みとか忘れてよいもの、防災文化という項目がありますけれど、取組の中で自主防災組織が文言としてある訳です。

実際、私が今取り組んでいる自主防災組織がある訳なのですが、基本的には自分の命は自分で守るということと、自分たちの地域は自分たちで守るという考えで現在取り組んでいる訳ですが、その中でこうした取組を通じて震災の伝承といいますか、伝えていくということも私はとても大事な視点であろうと思っています。

その後に県民が体験できる当たり前の対応・仕組みという文言もありますけれども、私のイメージとしては、自主防災組織とつながった形で県民が体験できる当たり前の対応を考えるということに結びつけてもらえればいいのかと思います。

ということは、今県内で自主防災組織の組織率は私の記憶が間違えなければ、人口比率でたぶん80%くらいかなと思っているのですが、実際に活動しているかは別にして、数字的にはそういうことがあろうと思うのですが、やはり自主防災組織は今言った理念があるものですから、そういう形で育成しながら、あるいは活動しながら今回の教訓を伝えていくという形の方が、本当に日常の生活密着した中でそれが伝えられるということであれば、市民であったり県民であったり、受け手の方にとっても非常にスムーズに入っていけるのではないかなという思いをいたしましたので、一つお話をしておきたいと思います。

●今村座長

ありがとうございます。改めて地域の取組は重要であるということかと思います。

●太田委員

今お話があったので、気になっていたのを確認したいのですが、（b）の地域での取組の中の「忘れてもよいもの」というのはどういうことを指しているのでしょうか。

●今村座長

もっともなご意見です。（事務局が確認しますので、）少しお待ちください。

●武田委員

前回発言がありましたよね。

●小田委員

確か、どなたかから発言があつて。

●武田委員

そういう趣旨の発言が複数あったものをちょっとここに書き出してしまったために、一つ浮いているということだと思います。たぶんそうだと。

●山下 参事兼震災復興推進課長

確かにそうです。

●小田委員

記憶をすべてこう…

●山下 参事兼震災復興推進課長

一回目の会議の中で文化という話が出た時に、忘れてもいいものというセンテンスがあったので、そこだけ抜き出したので、全体との意味合いがちょっと不明確になった可能性があります。

●太田委員

まさに忘れた私のせいだと思うのですが、言葉はすごく大切だと思うのです。前後の文脈についての情報が無いと誤解をしてしまいますし、先ほど私が質問させていただいた「できなかったことよりも」というところも、この言葉だけ見てしまうとできなかったことは伝えなくていいのかと誤解されてしまう事もあると思いますし、そのような点で言いますと気になっていたのが、2ページ一番最後の「人間は忘れてしまうものであり…」と書いてあるのですが、これもちょっと表現に問題があるかなと思います。

外に理念を謳うときには表現は注意した方が良いのではないかと思います。

●今村座長

第1回目の会議の中で私が発言させていただいたもので、人間は日々生活をしていて、記憶がどんどん忘れられてしまう…

●太田委員

そうなのです。そういうことなのですけれど、忘れない人もいるかもしれないので、ちょっと感じました。

●武田委員

たぶんこれを最終文章として読んでいる人はいないと思うので、まさにそのような指摘を含めて、今までの素材をこのように当てはめて整理されたことだと思うので、途中経過として受け止めてよろしいのだと思いますが、それにしても6ページのこの整理はやや雑な感じはやっぱりしますよね。先ほどの(e)もあるのではないかという指摘も含めてちょっと生煮えのような感じもします。

理念のところ、地域文化の創造をするのだというところに非常に関わっているものとしては、やはり(b)と(c)ですよね。そういう意味で臼井委員から発言が出た(b)のところは、ややちょっと私は違うのですが、自主防災組織という既存のところの活動をそのまま活用しながらやっていけばいいじゃないかと、それは今までやってきた流れですから大切にすることはありますが、どうやら何かを新しい形で仕掛けていって、やっていかなくてはならないよね、ということでしょう。県民が体験できる当たり前の仕組みを想像していかなくてはいけないね、と。

地域文化の創造という文脈でそこを理解すると、既存組織も含めた形で何かもっと新しいことをやれないのかね、ないしは強力なものをやれないのか、効果的なものをやれないのかねというところを考えていかなくてはならないと。

地域の取組は、まさに足下でのそのような活動の基盤固めとして非常に重要で、ずっと全編を通じてなのですが、先ほどもいった啓発の部分をどう考えるのだ、いや、もう伝承の中に啓発が入っています、伝承することイコール啓発ですからという捉え方も可能なのですが、伝承と啓発でしょうと。

それは密接なもので、常に重さとしては両方あって、防災啓発というものに裏打ちされた伝承というものはやっぱり必要で、そこは表裏一体なので、その啓発にどう取り組むかということも、全編通して整理しなければいけない話のような気がします。言葉だけの整理になるかどうかは別にしてですね。

そうすると今のところが重要になってくるのですね。具体的に何をやるのだと。あるものを伝えて、伝えればその仕組みさえ作ればいいですということではどうやら無くて、もっともっと働きかけていくような方向性を作っていくかなくてはならないよねという全体の作りにはいかないと、文化の創造までにはならないのだろうと。

全編を通じて感じたのはそういうところでした。どういうふうを書くかが非常に難しいところですが、伝承の中に含まれているものなのか、平行してそれも強調するものなのか、私個人の考えは強調する方が、より県民向けの文化創造という意味での力は非常に強いと思うし、それ自体が外に向けた発信にそのまま直結するようなものだと思うので、強めにそこを打ち出す必要はやはりあるのかなと。各項目の中でもあるのかなという感じがしています。

●今村座長

ありがとうございます。本当にキーワードは特に大切で、またこの報告書を作る時に丁寧に書いていくことだと思うのですが、伝承というのは我々が狙っているのは世代を超えてということですので、この内容とかやり方というのは、実は世代を見ながら変えてもいいのですよね。発展してもいい訳ですので、その辺ももし合意がいただければ、そのような書きぶりがいいのかなと思っています。

恐らく全く過去と同じやり方でやっていたら、例えば石碑の話になってしまうかと思うのですが、あれは本当に強烈なメッセージなのですが、今我々伝わるかというとなかなか難しいところがあります。そういう、やっぱり改善、発展というものもないと継続できないのかなという感じがします。ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。全体を通じて何かございますか。

●武田委員

連続ですみません。続けて、市町会議の主な意見の中で非常に気になっているのは、語り部の担い手の確保・育成・組織化の中で、もう始まっているじゃないかという指摘です。自治体に関与するまでもなく始まっちゃって結構大変なんだよね、みたいなことが書いてあって、現場の意見として非常に理解できるなど。

このところの動きとして、この一週間の間にも石巻で民間組織が立ち上がったたり、八仙沼の方でも一つの地域で立ち上がったたり、何か期せずしてそういうものが必要とされる空気感というものがあるなど、やはりそういう時期に差し掛かったのだなという考えを強くしているのですが、さて、ここなのですよね。

つまり今までも既に待てずに始まっている動き、震災以降も含めてですけど、そういうものを、自治体の戸惑いも含めて、どうコーディネートしながらさらにそれをレベルの高いものにして、共有していけるかというところが本当に大切に、やや後追いになっているのですよね。1回目の会議でも言いましたが、後追いが決して悪い訳ではない。逆に言うとな熟成もされている訳ですから、既にあるものを組み合わせるという工夫だけでいいのですけれども、ここのやり方を間違えると結構大変なことになるなという実感を持ちました。

市町会議でこういう意見が出たということの重みは、結構受け止めなければいけないなど感じたので、9ページでいうと住民・語り部というところは「誰が」の主体として挙げられている中の、住民といつつ、要するに被災体験を直接もっておられる方々の動きが既に始まっているのだという前提での組み立てというか、非常に大切だろうなど。

具体的に組織を作られた動きなども睨んでいくと、そんなに時間はかけられないし、要望されていることを早めに集約して行って、一つの運動のような形に持って行かないといけないのだろうなという考えを持ったものですから、とりあえず発言しました。

●今村座長

ありがとうございました。

●小田委員

その意味からすると、9ページの(イ)の伝承を牽引する組織の必要性というところにつながってくるかと思うのですが、というのもやはりこの「誰が」伝承するののかというこの「誰が」の部分は、この有識者会議では考え方の整理のために、こういう人たちが、既に活動をしている人も含めていますよね、という認識をする程度だと思うのですが、我々がここで「この人達がすべきだ」というように特定をするような類いの事では無いと思います。

これからも新たな類いといいますか、色々な取組がこれからも行われていくと思いますが、主にこういう「誰が」の人たちが、既に進められているものも含めて、そういった

人たちを外に発信する仕組みをどうするのか、という意味からすると、この「誰が」のところの書き方も気を付けなくてはいけないということはそういうことだと思います。

もう「この人達だけなんだよね」ということではなく、こういう人たちも、既にやられている人たちも含めて、これらの活動にスポットを当てて、あるいは何かの回路を通じて空間的に外に発信していくような仕組みとか、あるいはここのローカルのことを盛り上げる仕組みとかという、そのようなイメージです。ちょっと漠然としています。

●今村座長

ありがとうございます。改めてこの検討会議は、あり方でありますので、宮城県として体系化すると。各地での取組の特徴とか役割はもう見えてきますので、ではことここをさらに加えたり等、このような戦略が見えてくるための、まさにご意見をいただいているところだと思うので、小田委員がおっしゃった点を分かりやすく、是非あり方をベースに連携を高めてくださいということですね。

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

●武田委員

そのようなことでいうと、「どのように」の伝承の中で整理された中に、「どのように」ではなくて「どこで」という場所の話が隠れていますよね。市町会議の中にも石巻の南浜の祈念公園という単語が出てきて、仙台という単語も出てきて、結構これは、2回目の会議の時にも言いましたが、その整理も非常に大切で、これだけの広い地域の被災をどこで伝承するのだという事の論点というのが、4回目の会議以降は非常に重要になってくるのだらうなと思います。

そこに先ほど話をした、語り部の組織が既にできているじゃないかということも微妙に絡んできて、上手くそこが束ねられていくということですが、調整しながらやっているとやっぱりいいのだらうなと思います。

●今村座長

ありがとうございます。その他、もう全体について、本日は理念とかあり方について議論いただいているところでございます。もう一度理念について戻っていただいても結構ですし、次回以降は各論で個別の課題を深くご議論いただくところでございます。先ほど塚原委員のように、これについて、といったご要望も今日いただければ、4回目か5回目かスケジュールに入れて資料を用意していただければと思います。いかがでしょうか。

●石塚委員

今の小田委員と武田委員の話とつながっているのですが、あり方の検討を今、している訳ですが、ここで、このメンバーで整理をしているという時に、何か見落とししているところが無いとはいえないなというのが正直なところです。

それをすべてカバーすることは難しいとしても、今、先ほどから出ている現場での実践をされているような事例ですとか、モデルになるような取組を捉えてみるということが、個別課題検討の、一つの手段としてあり得るのではないかなと思っています。

このように私たちが議論してきましたけれども、現場ではよりこういった他の課題があったりですとか、他のターゲットがいたりですとか、そういったところをモデル的にいく

つか拾ってみて、それを見てみて、振り返ってみてデータを整理してみるということが、プロセスとしてもし踏めるのであれば、非常に意味のあることかなと思いますし、場合によっては石巻なり気仙沼なり、このメンバーで行ってみてということもあり得るなど。

●今村座長

現場で、どこでというのが大切ですね。臼井委員に来ていただいて。

●石塚委員

そうですね。すみませんこの委員会という方式に逆らってしまう形になってしまいました。

●今村座長

ありがとうございます。具体的なご意見をいただいたり、我々ここでカバーできない点もあるかと思うので、これについては第4回、第5回で、テーマで具体的に取組事例等も紹介していただけるかと思います。ありがとうございます。

ちょっと現場に行くのは辛いかなと。この第4回、第5回の方では。別途設けておいた方がいいですね。ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。次回以降のご要望を今いただいたところでございます。

事務局の方から何かありますか。だいたい本日もご意見をいただきまして、資料4については整理できています。ただ、今後もアップデートも必要ではありますが。特にこの点についてはまだクリアではなかったとか、またこういうことがふと課題として出てしまったとか、というようなところでもいいかと思えます。

あと、宮原委員から何か御意見等あったのでしょうか。特になかったでしょうか。

●山下 参事兼震災復興推進課長

今回は特にいただいておりません。

●伊東 震災復興・企画部長

次回以降、個別のところでは話し合いをしていただくということで、そのテーマ設定も今村座長とご相談しながら、今お話があったようなところで、組織の話ですとか、拠点・ゲートウェイの話ですとか、ネットワークをどうしていくか等、論点を整理して、できるだけ早めにこれらについてご意見をというところもお知らせしながら進めていきたいと思えます。

啓発というところに関しては、伝承の中あるいは防災学習の中を含めた形で意識を持っておりましたけれども、今「誰が」と「どのように」をつなげていないので、もしかしたら行政がやったときに啓発という言葉になるのか、そこがまだ整理ができていない。官民連携してやっていくといった時にどうふうにやっていくのかというところが整理できていないが、確かに重要な視点だなと思えました。

今個別にやっていますが、それをつなげていく中で深めていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

●今村座長

ありがとうございました。

●武田委員

一つ聞きたいのですが、市町の会議では県による統率感のようなものを期待している雰囲気だったのでしょうか。

今バラバラで、我々のところで色々なことが進んでいるけど、伝承のあり方を考える時に、やっぱりまとまった形でのまとめ方に対する期待感というのはあるものなのか、ないものなのか。この資料ではちょっと見えないところがあるのですが。あるようでもあり、ないようでもあり。余計なことをするなという風にも読めない訳でもないしで。

●山下 参事兼震災復興推進課長

市町会議の方では、有識者会議と平行してやっているということで、有識者会議の議論の中身については伝えながら、今後どのようにやっていくのかということ、特にネットワークとか拠点とか、語り部をどうしていくか、それぞれの市町の中での課題が表に出ている中でネットワークしていかなくてはならないというのもあるのですが、それをどのようにやっていくかということに関しては、誰が何をやるかというところが、まだ漠然としていなくて、県が何をしてくれるのか、こういうものが欲しいというようなところになっていて、かなり現実的な話のところに入っています。

こちらの方の有識者会議がある程度まとまると、その辺を伝えていくと何をしなければならないのかという話が分かってくるので、ちょっと今回3回目の会議は一回休会をしまして、今回の会議をまとめさせていただいたものを次回の市町会議にかけさせて、議論をいただこうと考えているところでございます。

●今村座長

ありがとうございます。ちょっと繰り返しになってしまいますが、我々はマップを作らせていただきます。伝承のあり方というところですね。そこで活動がプロットされていて、軸も色々なものがあると思うのですね。こうとってもいいですし、こうとってもいいです。軸が見えてくると、ここここ、というような、足りないところも出てくるので、それは県の方で是非全体を把握していただいて、強化という言葉になると思いますが、強く押ししていただければなと思います。

それでは、世界防災フォーラムの県主催セッションではどんな議論がされるのか、時間がありますのでご紹介いただければと思います。是非、ご参加いただければと思います。

●山崎 震災復興推進課副参事兼課長補佐（総括担当）

今回はまさしく、この会議に連動させるという訳ではないのですが、問題意識として伝わる、これまでの先行する大震災の教訓がどの程度生かされていたのだろうか、もちろん伝わったものもありますし、同じような困難が繰り返されたものもあったと。

ではなぜ伝わらなかったのだろうかというところを、震災伝承ですね、追いかけている研究者にコメントをいただいた上で、それを越えた、伝わる伝承というのはどういうふう to 実現されるものなのかというところを、今研究されている事例とか見られている先生方から御提言いただくというようなところで。

こういうふうによっていけば今までの限界を超えて、機能する伝承がなされるのではないかと、このところを各パネリストの皆様から御開示いただいて、聴講者の皆様と共有していきたいなというところでデザインされたものでございます。

●今村座長

ちょうど今チラシが配布されましたが、中身のご紹介をお願いいたします。

●山崎 震災復興推進課副参事兼課長補佐（総括担当）

今ご紹介したところですが、中段にある、理念にもありますように、同じ犠牲と困難を繰り返さない為に、例えば阪神・淡路大震災の伝承活動でも色々伝えるためのツールとか取組があったのだけれども、実際に次の被災地に上手く届けられなかった物事が沢山あったというところを出発点にして、何が足りなかったのか、どのように伝えたら後世の人たちにちゃんと伝わって、結局伝えた相手が行動変異を起こさないと伝わったことにはならないので、今までの伝え方に何か抜け漏れみたいなものがあったのではないだろうか。

ここのあり方検討の「どのように」というところにもありますけれども、例えばただ伝えるだけではなくて、その伝えた相手ともっともっと対話をしていけるような、武田委員をはじめ、河北新報社で行われている「むすび塾」のような形で伝える相手と伝わっているのか、伝わっているよ、みたいなすり合わせのようなものを含めて取り組んでいかないと、実際に機能する伝承にはつながらないのではないのかなというところのご意見が恐らく出てくるものと。

それに活用できるようなツールとか、伝承の資料の整え方、やり方とか、その辺を実際に研究されている先生方にお集まりいただきましたので、そのようなお話が聞けるといところで、お時間許す方は是非、ご参加いただきたいと思います。会場は1, 000人入ります。まだ3分の1くらいは席に余裕がありますので、よろしく願いいたします。

●今村座長

ありがとうございます。ちなみにチラシの裏を見ていただきますと、パネリストの紹介が載っております。牧先生は恐らく阪神・淡路大震災を代表して、重川先生も同じですが、今静岡にいらっしゃるということで、次への備えの立場ですね。佐藤先生はこの地元と。トリシア先生はこの方はデラウェア大学におられて、ハリケーンカトリーナで色々な支援をされている。藤間さんはまさに現場で伝承活動をされている。伊東部長がコーディネーターです。是非活発な御議論をいただいて。

●山崎 震災復興推進課副参事兼課長補佐（総括担当）

今、プレゼンテーションの資料が手元に届き始めていますけれども、牧先生におかれましては人と防災未来センターの資料室の室長をされていますので、モノが語ることとか、神戸の方で世代間の対話をやっておりますので、そのような取組等をご紹介いただきます。

重川先生は災害エスノグラフィーということで、体験者のありありとルポみたいなものを、要約されたモノではなくて、ストーリーで伝えていくというような切り口が大事だよと。特に行政に伝達するところでそれが機能するのではないかとというようなお話。

佐藤先生におかれましては、陸前高田のアンケートを紐解きながら、家庭内とか地域でどのような伝えられ方をしている人たちが避難行動につながっていたのか、そこでも対話みたいなものが見えてくるようなお話です。

トリシア先生におかれましては、今村座長からもご紹介がありましたとおり、ハリケーンカトリーナとか、世界的な災害対応の時の色々臨機応変な対応は必要なところで、どのような被災地の状況を伝えていけばいいのかということに色々アプローチされておられる方です。あと宮城県とデラウェア州は姉妹州みたいな友好州でございます。その関係もございまして、急遽おいでいただく事になりました。

藤間さんにおかれましては、みらいサポート石巻で、伝承の最前線で取り組まれている実践をお伝えいただくというような、本当にパネリストの方が5人もいる、90分なのに、という盛りだくさんの内容となっております。

●武田委員

ちなみにですね、河北新報の12月13日付けの朝刊で、世界防災フォーラム自体の再録詳報特集の1項目として予定していますから、行けなかった方はそちらをご覧ください。詳録が分かると思います。

●今村座長

あと、フォーラム全体は11月28日にクロージングになりまして、サマリーはご紹介しますので、まずは当日ご参加いただければと思います。

パネリストで女性の方が多いのは、なかなか良かったです。大体国連の方が来ると常に言われるのですよ、パネリストは男性ばかりだねと。

ありがとうございました。

●山崎 震災復興推進課副参事兼課長補佐（総括担当）

コーディネーターも私どもの伊東でございますので、壇上6人のうち、4人が女性です。

●今村座長

非常に珍しいメンバーですね、将来を示唆するような構成であると思います。ありがとうございました。

それでは全体を通じて何かございますでしょうか。

本日は、最初は報告をいただきまして、後半は理念、またあり方、取組を御議論いただいた訳でございます。小田委員からも資料をいただきました。

よろしいでしょうか。それでは時間となりましたので、事務局の方にお戻ししてよろしいでしょうか。

●事務局（山下 参事兼震災復興推進課長）

資料の11ページに記載もありますけれども、第4回目、5回目は12月、1月ということで委員の皆様方には日程の調整をさせていただいておりますが、まだ日程確定までは至っておりませんが、今のところの予定としては12月の下旬から1月にかけて次回の開催を考えております。また追って日程調整させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また、次回につきましては、先ほどありましたように、全体的な総論をもう一度やっていただくとともに、個別の課題につきまして深掘りさせていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

●今村座長

ありがとうございました。

4 閉会

●山崎 震災復興推進課副参事兼課長補佐（総括担当）

今村座長，進行ありがとうございました。

以上で，第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。